

JSIR NEWS LETTER

国際リハビリテーション研究会

vol.25 2024年10月28日発行



巻頭言

『人との「ご縁」を大切に』

車井 元樹 (国際リハビリテーション学編集委員、
国際医療福祉大学成田病院)

〔巻頭言〕

『人との「ご縁」を大切に』
車井元樹

〔特集〕

『チリで活動するJICA海外協
力隊～都市部と地方における
リハビリ事情の違い～』

高橋佳太郎
竹田義教

〔連載：研究万華鏡〕

『サンプリングの難しさとか
切さ～素材が大事！～』

高橋恵里

〔コラム：世界のめがね〕

『アンゴラ～大切な人が沢山
住む国～』

勝田茜

私は2016年から2018年までJICA海外協力隊としてベトナムの障害児者施設で作業療法の普及活動を行っていました。帰国してからは「ご縁」があってこの国際リハビリテーション研究会の活動に参加させてもらっています。

JICA海外協力隊の経験は私の世界観を大きく変えてくれました。以前の私はどちらかというと内気で人と関わるのが苦手でした。しかし、JICA海外協力隊になってから人との縁の大切さがわかり、今は積極的に人と関わるようになっていきます。そのおかげで患者様へ作業療法を提供するだけでなく、外部での活動も増えてきています。先に述べたように国際リハビリテーション研究会の活動に参加するようになったのも「ご縁」があってのことですし、今の職場で働き始めたのも「ご縁」があったからです。今現在はJICA海外協力隊の経験を活かして地域連携に関する活動に力を入れています。また、今年になって再びベトナムとの関りが持てるようになってきており、これも「ご縁」があってのことです。

このように人との関わりを大切にしてきたことで仕事の幅が広がり、縁が縁を呼び、再び国際協力に関われるようなところまで来ています。仕事が大変なときもありますが、国際協力をきっかけに私の世界観が変わったことで、日々新しいことに挑戦できる今の日常に充実感を感じています。

【特集】

チリで活動するJICA海外協力隊

～都市部と地方におけるリハビリ事情の違い～



本号では、私が派遣されているチリのリハビリ事情について、同じくチリ派遣の作業療法士・竹田氏をゲストにお招きしてお伝えしたいと思います。地方と都市部、気候や地形による違いに着目してお話しできればと思います。



高橋佳太郎(JICA海外協力隊、チリ派遣、理学療法士)

私の任地は第IX州（アラウカニア州）にあるテムコ市です。テムコ市は人口22.14万人、面積464km²の大都市です。気候帯は西岸海洋性気候に属し、年間を通して雨季が多く、冬季は非常に寒いです。暖炉は主に薪ストーブを使用するため、朝・夕方は煙で街が真っ白になることもしばしばです。また、先住民族であるMapuche族が存在しており、要所に先住民の文化が見受けられます。具体的には、Mapuche語を話せる人がいたり、牛や馬で公道を移動する人がいる…etcです。

配属先はCentoro de Comunitario Rehabilitacion（以下CCR）で、市が管轄する市内唯一の通所リハセンターになります。職員はPT3/OT3/ ST1/臨床心理士1/社会福祉士1、その他にドライバー、事務職員を含む計16名で構成されています。対象疾患は各種整形・神経疾患です。特徴的な点としては、市内で唯一脳卒中に対する通所リハビリを提供しており、利用者の大部分を脳卒中の方が占めます。業務内容は①外来診療（30分/回×10set）②地域活動（Taller,講習会）③家屋訪問の3つです。Tallerと呼ばれる地域活動は、週に1度市内にある公民館や診療所の施設などを借りて、その地域に住む高齢者などに集団リハビリを提供する活動です。CCRだけに限らず、テムコ市ではこのTallerの活動に注力している施設が多く存在します。

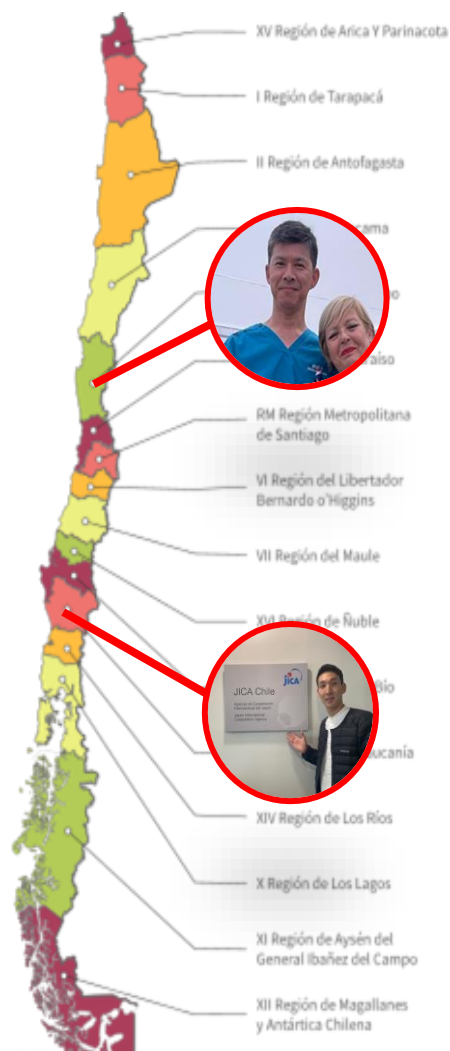
先述した通り、テムコ市はチリの中でも大都市なので、基本的なインフラに困ることはあまりありません。貧富の差から生じる医療格差や待機患者の問題はテムコ市にもありますが、地方のように近隣の病院まで数時間を要する…といったアクセスの問題が生じることは少ないです。一方で、広大な土地に広くリハビリを必要とする方が分布しているため、リハビリの需要に対する供給の乏しさが課題となっています。そのため、対象者の自宅に訪問してリハビリを提供する訪問診療よりも、送迎バスで利用者を複数人ピックアップして、CCRのような施設に送り届けるといったスタイルが確立されています。また、西岸海洋性気候に属するテムコ市では頻繁に雨が降るため、特に冬季になると地域住民の閉じこもり傾向が顕著となります。実際、私の活動では利用者に対してLife Space Assessment（以下LSA）をリハの前後で評価しデータを集計しているのですが、総じてその点数は高くありません。以上のことから、テムコ市においては介護予防に対する取り組みへの注目が高まっており、CCRだけに限らず先述したTallerのような地域活動に注力している施設が多く存在します。

このような問題に対して、私は日々のTallerで提供するアクティビティのアイデアや道具を作成する側、折り紙や書道といった日本文化を紹介・体験してもらうTallerを現在企画しています。LSA低値群の利用者、今はリハビリを行っていない元利用者を対象にこの企画に参加してもらうことで、少しでも外出機会の増加に繋がればと考えています。

あっという間に残り1年の活動期間となりましたが、このようなTallerの発展を通じて、少しでも地域住民の健康増進・介護予防に寄与することができればと願うばかりです。

◎チリの基本情報

面積：756,950km²（日本の約2倍）
人口：1911万人（日本の約1/7）
民族：メスティーソ（混血）80%
言語：スペイン語
特徴：中進国,幅広い気候,高い高齢化率（19%）

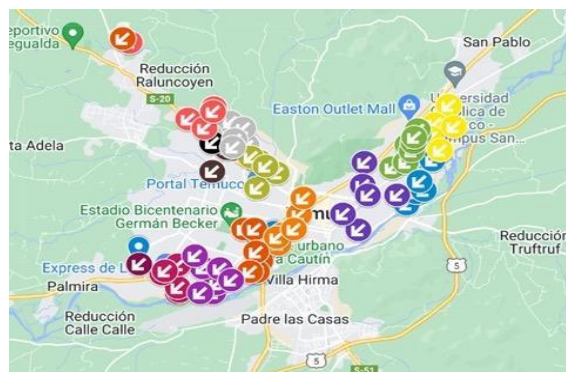


【国内における隊員の配置図】

【市内における利用者の分布】



【Tallerの様子】



竹田義教(JICA海外協力隊、チリ派遣、作業療法士)



【巡回訪問への道中】



【訪問診療の様子①】

2024年2月からチリのサラマンカ市に派遣されている竹田義教です。サラマンカはチリ北部に位置し、アンデス山脈の麓で山に囲まれたほとんど雨の降らない乾燥地域です。人口は約3万人で、都市部に約15,000人、周囲の3つの谷に沿って点在する山村部の集落に約15,000人が生活をしています。

配属先はサラマンカ市役所保健局です。市内には小さな病院が都市部にひとつ、その他は山村部に20か所以上点在している小さな医療拠点（看護助手のみ勤務、以下POSTA）しかありません。近くに大都市はなく、大きな病院へ行くためには車で4時間以上かかる土地柄のため、山村部の日常的な医療については定期的に医師や看護師、リハ職員などがPOSTAに巡回訪問をして対応をしています。チームに作業療法士はいないため、そのチームの一員として活動するのが私の要請内容でした。現在は訪問以外に外来訓練や介護予防事業へのかかわりもしていますが、今回はメインである巡回訪問の活動についてお話します。

巡回訪問は、各POSTAを起点に週1～2回、3か月を目途に実施します。チームには看護師、理学療法士、言語聴覚士、臨床心理士、ソーシャルワーカー、そして作業療法士（私）がおり、各対象者に必要な職種がかかわる形で行います。日本同様に山村部の過疎地域に住むのはほとんどが高齢者であり、過酷な環境で生活をしています。谷に沿って奥まで細い山道が通っており、住宅は道路脇の崖の上または崖の下に建てられています。そのため、玄関前には長い急な坂道や階段があり、さらに自宅内も土でガタガタな床面だったり台所やトイレが屋外にあったりなど、都市部とは大きく違いがあります。町へ出るための公共交通機関も一日2往復、そのバス停までもかなり遠い地域も多いため、家族の援助がない場合は買い物や受診等にも大きな影響がでています。加えて、極度の乾燥地域のため水道の利用制限がある地域もあります。

そこで、私たちのチームでは、地域の高齢者宅を訪問して身体状況や生活状況を確認し、生活維持のための支援をしています。ただ、当初は専門職間の連携や生活についての評価が弱く、その場限りの運動を指導したり家族の話を聞いたりするだけで終わっていたため、具体的な支援にはつながりにくい状況でした。そこで、私は作業療法士としてADLの評価や家屋状況の確認をしながら他職種に状況を伝え、少しずつでも具体的な生活の維持改善につながるような提案をするようにしていきましました。まだまだ不十分ではありますが、生活の視点をチーム内で共有できることが私の活動の大きな目標となっています。

南米の優等生と言われたこともあるチリですが、まだまだ都市と地方の差や貧富の差などの格差はとても大きくあると感じています。今後も医療過疎の状況が続くこの山村部において、限られたかかわりの中でいかに効率的な支援をできるか、それが今後の大きな課題となるのではないかと考えています。



【訪問診療の様子②】

【連載】研究万華鏡*

Inspiration for your research

サンプリングの難しさと大切さ ～素材が大事！～

「研究に興味があるが何をすればよいのかわからない…」との声にお応えし、気まぐれに研究について綴ります。

事務局では本連載で取り上げてほしいテーマを募集しています。希望テーマがありましたら、事務局までぜひご連絡ください。

大規模な調査研究を行う時、サンプリングがとても重要ですが、同時にとても難しくもあります。例えば〇〇国△△地域の3～5歳の幼児の運動能力を調べたいとしましょう。3～5歳児の人口はとても多い場合、全数調査は現実的ではありません。では、無作為抽出をしたいところですが、母集団から無作為抽出しても結局は協力が得られた方が対象となり、意図していた母集団の代表とは異なってしまふことがあります。これを選択バイアスと呼びます。この選択バイアスはできるだけ小さくしたいですが、選択バイアスを小さくすることは簡単ではない上に完全にゼロにすることはできません。選択バイアスをゼロにできない以上は、極力小さくするように努力した上で、研究結果を発表する際に、選択バイアスについて十分に理解して結果を解釈すること、研究限界として伝えることが必要ですね。読み手や受け手も、どのようにサンプリングを行ったのかを理解して、結果を解釈する必要があります。統計の解説本1)には、『どれだけ料理（統計解析）が上手でも、食材（対象と得られたデータ）が悪ければ美味しいものはできない』と書かれていました。そう、その通り。素材が大事！と痛感しています。意図せず、今回は、2022年4月に発行されたvol.15の連載と類似した内容となりました。よかったらバックナンバーをふり返ってみてくださいね！（福島県立医科大学 高橋恵里）

1) 対馬栄輝ら. 医療系データのとり方・まとめ方 第2版. 東京図書株式会社. 2021

【コラム】『世界のめがね』

世界中で活躍を展開している
会員のめがねを通した
世界の姿を各号お届けします。

アンゴラ共和国 ～大切な人がたくさん住む国～

勝田茜 国際リハビリテーション研究会理事
佛教大学保健医療技術学部

アンゴラ共和国は、アフリカの南西部に位置しています。公用語はポルトガル語で、ダイヤモンド等の鉱物資源に恵まれた国です。1975年の独立以降は内戦が続いていましたが2002年に終結しています。しかし、現在も多くの地雷が埋まっており、危険区域が多く存在しています。首都のルアンダでは高層ビルが建てられたり、海岸沿いの道路が整備されたりときらびやかな一面がありつつも、至るところにスラム街も存在しています。首都ルアンダは物価が高いことでも有名で、貧富の差が大きな国です。そのため、内戦が終結し20年以上たった現在も、ドイツ国際平和村（人道援助団体）に医療支援を求めてやってくる子どもは、数多く存在します。

さて、今年の夏はオリンピック・パラリンピックがありました。開会式では、縁のある国が紹介されるととてもワクワクします。私にとって、アンゴラはその1つでした。皆さんにとっては、どの国の紹介にテンションが上がりましたか？オリンピック・パラリンピックの際に母国のように想いを馳せる国が増えることを楽しみにしています。

【2016年に訪れた際の写真】



[お知らせ]

【国際リハビリテーション研究会第8回学術大会】

テーマ：国際リハビリテーションにおける地域共創～海外と国内の経験を共有しよう～

日時：2024年11月17日（日）9:30～15:50 ☆オンサイト・オンライン参加可能☆

会場：いろどりの丘（宮城県東松島市野蒜ヶ丘）

参加費：会員2,000円 非会員3,000円 学生1,000円

学会HP 参加申込受付中！（締切11月10日（日））

【学会サイドイベント スタディーツアー 石巻で学ぼう】

日程：2024年11月16日（土）12:30～18:00

集合場所：石巻駅

参加費：5000円（学生2000円）

※参加費はレンタカー代、ガソリン代、講師謝金に充てさせていただきます。

定員：15名（最低遂行5名）

申込：<https://forms.gle/ynW8qPV7XkDGCRmj8>

【国際リハビリテーション研究会第9回学術大会】

テーマ：グローバルヘルスにおけるリハビリテーションの挑戦

日程：2025年12月14日（日）

場所：東京都

詳細については今後広報します。お見逃しなく！

編集後記

特集では、チリにおける都市と地方の医療事情の違い、異なる医療へのアクセス方法のほかその地域の気候や地形による影響なども知れ大変興味深く感じました。「生活を見る」大切さを改めて感じることができました。

（古川雅一）

プレ kongress での JICA 海外協力隊「グローバルプログラム」や本記事を通して、日本とチリ、都市と地方の課題に熱く取り組まれている執筆者に感銘を受けました。11月に開催される第8回国際リハ学会では、「国際と地域の共創」がテーマであり、とても楽しみです。

（三田村徳）

事務局 編集担当

大西 海斗（コーエイリサーチ&コンサルティング）

長田 真弥（姉ヶ崎ヶアセンター）

高橋 恵里（福島県立医科大学保健科学部）

高橋 佳太郎（JICA海外協力隊、チリ派遣）

古川 雅一（仙台医健・スポーツ専門学校）

三田村 徳（東北医科薬科大学病院）

【研究会HP】 <https://int-rehabil.jp/>

【お問い合わせ】 国際リハビリテーション研究会事務局
jsir.office@int-rehabil.jp

JSIR HP

